

日本史 A, 日本史 B

第 1 高等学校教科担当教員の意見・評価

日 本 史 A

1 前 文

4 年目の共通テストとなる。全科目共通の問題作成方針に加えて、日本史の問題作成方針には、「事象に関する深い理解に基づいて、例えば、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題、仮説を立て、資料に基づいて根拠を示したり、検証したりする問題や、歴史の展開を考察したり、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する」と示されている。

なお、評価に当たっては、報告書（本試験）14ページに記載の 8 つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内 容・範 囲

第 1 問 19 世紀後半から 20 世紀後半にかけての日本の貿易や経済の状況の文章が提示され、幕末から、1980 年代までの時期に関わる問題が出題された。設問は、政治史、社会経済史、外交史に関する小問等で構成され、知識を問う問題を中心に、新聞史料や、数値統計データを活用して解答する問題もみられた。

問 1 日米修好通商条約に関連する選択肢の文章から適切なものを選択する問題。和親条約、修好通商条約に関する正確な知識を把握しているかを問うた問題であった。

問 2 日本における銀本位制、金本位制の導入時期の理解を前提に、金銀比価の折れ線グラフと、欧米諸国の金本位制の採用年の一覧を基に、文章の正誤を判定する問題。安政の五カ国条約の締結国に関する理解、本位制度導入の時期に関する知識が求められた。

問 3 1890 年代から 1930 年代の日本の貿易・産業に関しての四つの文章から誤文を選択する問題。それぞれの経済政策に関する結果とともに、浜口雄幸内閣や、犬養毅内閣といった、各内閣における経済政策への正確な理解が求められた。

問 4 「1935 年の日本の貿易」に関する統計、「1938 年におけるアジア植民地の対本国貿易比率」の 2 つの統計から、資料内容に関する正しい説明文の組合せを選択する問題。植民地内の移出・移入と対外貿易の外貨の獲得の有無の関連性など、貿易のしくみを把握する必要がある問題であった。

問 5 日中戦争・アジア太平洋戦争期の日本の物資や資源に関する動きに関する四つの文章の中からの正文を選択する問題。国家総動員法の内容に関する正確な理解が求められた。他の選択肢に関しては日中戦争や日本の南方進出に関する地理的な理解が求められ、軍票といった占領地における軍政に関する理解など、やや細かい知識が必要であった。

問 6 吉田茂と中華民国の特使張群氏とのやり取りに関する『毎日新聞』の新聞史料を活用し、二つの文章の正誤の組合せを選択する問題。史料を丁寧に読み解く力が求められた。

問 7 戦後の国際経済における日本の経済政策に関する三文の整序問題。1960 年代から 1980 年代における過程を正確に理解できているかが問われた。

第 2 問 地域調査において東京に着目し、時代の変化を探究した高校生 2 人の会話から、幕末～

明治時代までの時期に関わる問題が出題された。設問は、政治史、外交史、文化史に関する小問で構成され、文献資料、絵画資料を用いたものがみられた。

問1 幕末の政治過程に関する三文の整序問題。開港後の状況、公武合体運動、京都における政局の変化などに関するおおまかな理解が求められた。

問2 『幕末御触書集成』に所収された徳川慶喜の史料から、二つの文章の正誤の組合せを選択する問題。史料の読み取りとともに、1867年の大政奉還から王政復古の大号令、翌年正月の鳥羽・伏見の戦いにいたる政局の正確な把握が求められた。

問3 明治初期の欧米、アジアに対する外交に関する二つの文章に関連する人物と条約を選択する問題。条約改正交渉過程への理解とともに、日清修好条規に関する知識を判断する問題であった。

問4 東京遷都に関する文献史料とともに、その様子を描いた錦絵を活用し、四つの文章の正誤を判定する問題。図の錦絵のタイトル部分の情報にも注意を払い、戊辰戦争と新政府の政策の進展が同時並行であったことなどに意識を向ける必要のある問題であった。

第3問 近代日本の印刷や出版に関する二つの展示解説文が提示され、明治初期から1940年代までの、政治、社会経済、外交、文化に関する小問で構成され、知識を問う問題とともに、資料活用や思考判断の観点を問う問題と総合的な出題がなされた。

問1 明治期の法令に関連する、二つの文章に該当する士族反乱と大久保利通、山県有朋といった政策中心者を選択する問題。士族反乱に関してはやや細かい理解が問われた。

問2 民撰議院設立建白書に関する森有礼の論考の史料文から、史料の理解力と森有礼が属した明六社『明六雑誌』への知識を判断する問題であった。

問3 初期議会の記録史料である速記録とその説明文から、空欄に入る適切な語句の組合せを選択する問題。初期議会における政府の対応への理解とともに、その後の影響への理解も求められた。

問4 明治期から大正期の日本画、洋画に関する四文から、誤文を判断する問題。活動の主要人物や作品とともに、美術に関する団体、学校に関する正確な把握が求められた。

問5 明治後期から1930年代における社会運動に関する三文の整序問題。女性解放運動、大正期から昭和初期における社会主義運動、1930年代前後における国家主義の台頭など、時代の流れへの把握が求められた。

問6 犬養毅の議会演説である「軍事費節減予算論」の大意の資料文から、二つの文章の正誤の組合せを判定する問題。資料文の読み取りとともに、甲午農民戦争への正確な知識が問われた。

問7 1920年代から1940年代の三つの「ポスター」資料と、三人の高校生の会話内容を比較し、会話内容の正誤を判断する問題。ポスターに掲載された様々な情報を活用し、関東大震災の復興、政党政治の展開、アジア太平洋戦争などへの知識を判断する問題であった。

第4問 授業課題において銅像の歴史をテーマに調査を行った高校生二人の会話から、幕末期から、1970年代までの時期に関わる問題が出題された。設問は、政治史、外交史、文化史、社会経済史に関する小問で構成され、新聞記事、自治体史の所収史料といった多様な文献資料が出題に用いられた。

問1 会話文中の空欄に適する語句の組合せを選択する問題。前者は、1877年の西南戦争で官位を政府から剥奪されていた西郷隆盛の位階が1889年に贈位された際の年代から、大日本帝国憲法を選択する問題であり、後者はロダンに師事した彫刻家を萩原守衛として選択する問題であった。両者とも知識問題として出題されており、特に前者は会話文で登場する年号が

解答する上での必要な情報となっていた。さらに有機的な出題を期待したいところである。

問 2 明治期から大正期に関する当時の新聞史料の整序問題であった。史料文中の中から、日露戦争の開戦、大正政変、シーメンス事件、米騒動などに関連する語句を見定め、整序を行うもので、史料特定から時代整序という二段階の力が要求された。

問 3 井伊直弼の銅像建設の沿革に関する史料から、幕末政治史に関する四つの文章の正誤を判定する問題。将軍継嗣問題、安政の大獄、公武合体政策などに関する正確な知識が求められた。明治以降も評価が変化する井伊直弼を基にした史料の提示など大変興味深い。

問 4 明治天皇死去後の銅像建設に関する板垣退助の新聞上での意見文章を基に、板垣の主張内容の読み取りと、板垣退助を通して明治期における政党、内閣、元老などについて問うた問題であった。板垣の首相経験の有無など、選択肢をしっかりと見定める力が求められた。

問 5 日中戦争から敗戦までの政治・社会に関する四文から、正文を判断する問題。当該期の市民生活に関する理解とともに、前後の時代の政策や内閣などに関する正確な知識が求められた。

問 6 銅像に関する新聞史料に関連する知識と史料内容の読み取りに關しての問題。大隈重信内閣、寺内正毅内閣といった大正期の内閣の外交政策に関する理解とともに、史料内容に關しての把握が求められた。

問 7 敗戦から1970年代までの科学技術についての四文の中から、誤文を判断する問題。戦後のいわゆる「三種の神器」「3C」などに関する知識を中心に、ノーベル賞受賞者、石油化学コンビナート、大阪における日本万国博覧会などの知識が問われた。

第 5 問 高校生が1940年代から1970年代までの都市居住者の生活に関して探究した過程での聞き取り調査のメモを資料文として、1930年代から1970年代に関する問題が出題された。設問は、政治史、社会経済史に関する小問で構成され、1960年代から1970年代なかばの人口・農業従事者数に関するグラフデータや戦時中と1960年代の住宅間取り図、さらに関連する回想録や新聞記事など様々な資料提示がなされ、総合的な出題も設定された。

問 1 昭和恐慌に関して、二つの文章の正誤を判定する問題。産業合理化に伴う失業者の増大により労働争議が多発したこと、写真などでも掲載されることが多い切符制は、戦時中に開始されたことなどに関する知識が求められた。

問 2 1945年頃から1950年における労働組合や関連政策についての三文の整序問題。労働組合法の制定、二・一ゼネストとGHQによる中止命令、日本労働組合総評議会（総評）の結成などに対して、前後関係を踏まえた正確な「ながれ」に対する理解が求められた。

問 3 1948年の東京の状況を記した資料文の読み取りを基に、四文の中から正文を選択する問題であった。戦後直後の経済状態や復員・引揚げなども含めた知識、理解が求められた。

問 4 聞き取りメモに関する資料文を基に、四文の中から誤文を選択する問題。勤労働員、空襲、疎開、厭戦気分の高まりなど、戦時中の国民生活に関する知識を求める問題となっていた。

問 5 1960年代に関する政治・社会に関する四文の正誤の組合せを判定する問題。第五福竜丸事件、多党化減少、公害問題と公害対策基本法、第4次中東戦争と第1次石油危機といった、1950～1970年代の政治・社会の主要な知識の理解を判断する問題であった。

問 6 1960年代から1970年代の人口と農業従事者のグラフに関連する四文から、正文を選択する問題。前出の高校生による聞き取りメモの記述と照らし合わせながら、知識を活用して正誤を判断する作業が求められ、沖縄返還協定などに関する年代への正確な知識も求められた。

問 7 戦時中の職工住宅と1960年代の公団住宅の間取り図と建築学者の回想記録、3DK公団住

宅についての新聞記事を基に、四文の正誤の組合せを判定する問題。様々な資料を照らし合わせ、思考と判断を総合的に問う出題であった。

【総合所見】内容については、学習指導要領の目標に則しての出題であった。

史資料を用いて読解力や分析力を問う姿勢が今年度も強く示され、提示された史資料、統計グラフは選択肢となっているものを除くと22点となった。また、会話文や展示解説文、高校生の調査結果、聞き取りメモといった、資料として扱う必要のあるものが、全体として8点提示されており、受験者にとっては初見と思われる史資料を論理的に読み取り、考察する力が求められた。提示された史資料は工夫されたものが多く、例えば「4」や「17」、「18」、「21」等で扱われた史料・写真は、高等学校の教員にとっても、当該期の状況に関する情報を引き出す史資料として大変興味深い。

また、「7」・「16」の整序問題などは、それぞれの時代の風潮を象徴的に扱う上での主要な内容を取り上げており、時代を流れとして捉えることの重要性を意識させる上でも良問であったといえる。また、「20」の整序問題は、史料から適切な情報を捉え、歴史的な事象に結びつけて考える必要がある良問であった。

昨年度と同様、正確な理解や考察力を求める問題が多く、理解の質や考察力が細やかに測られている。求められた理解は、人物や事柄などを他の事柄と関連付けながら正確に理解するというもので、例えば「1」・「3」は、基礎的理解を基にして事柄の結果や影響を考察する問いであり、基礎的な範囲を超えないものであった。

範囲については、第1問で幕末期から1980年代までの時期、第2問で幕末期から明治時代までの時期、第3問で明治時代から1950年代までの時期、第4問で幕末期から1970年代までの時期、第5問で1930年代から1970年代までの時期が扱われ、戦後史に関わる問いが8題ある等、幕末から現代まで偏りなく出題され、政治史、社会経済史、外交史、文化史等分野のバランスも良かった。

3 分量・程度

60分の試験時間に対して、問題数は大問が5題、小問が32題で、昨年度と同様であった。史資料の活用が今回においても重視されていることから、読解にやや時間を要したと思われるが、基本的事項の正確な理解や基礎的な力を問う問題が主体であり、分量・程度とも適切であったといえる。ただ、輸出入・移出入（「4」）等、公民的な理解を反映された内容もみられ、また、「11」のように、江戸時代との連続性を意識した出題もあった。

4 表現・形式

史資料の提示を含め、問題文の表現は明確であり、選択肢の文も簡潔に記述されていた。史資料についても、極端に難解なものではなく、脚注が丁寧に付され、丁寧に読むことで受験者が正確な判断ができるよう配慮されていた。形式については、高校生による調べ学習、探究活動や会話、発表に向けたメモ等、具体的な学習場面から構成される例年通りの大問が中心であったが、今年度は展示の解説文から構成される大問も出題された。また、年表問題や地図などを資料として提示する問題は、今年度は出題されなかった。小問でみると、32題のうち、空欄に適する語句の組合せを選択する問題が1題、二文や二つの事柄からそれらが示す人物や語句、正文の組合せを選択する問題が4題、正文の組合せを判断する問題が6題、二文の正誤を判断する問題が6題、三文の整序問題が5題、四文から正文を判断する問題が5題、四文から誤文を判断する問題が4題、また、資料文における会話の発言者の内容の正誤を判断する問題が1題であった。

5 ま と め（総括的な評価）

共通テストは、基本的事項の正確な理解や思考力・判断力・表現力等を重視する学習指導要領の指針に合致するもので、受験者の培ってきた力や理解を概ね評価するのにふさわしい問題であったと評価したい。全体として、文献史料はもとより、グラフや統計資料、あるいはポスターなどの印刷物などのメディアを扱う問いも出題されるなど、史資料の情報を始め、出題中の様々な情報を選択し、これまでの学習で得た知識と関連付けて思考・判断させたいという出題意図が感じられた。また、第1問は貿易や経済の状況、第2問は「東京」の時代変化、第3問は印刷や出版、第4問は銅像、第5問は都市居住者の生活がテーマとして取り上げられ、興味・関心を比較のしやすい視点とともに、第4問の井伊直弼像にまつわる出題のように当時の歴史上における人物評価の変遷を題材として取り上げた部分など、認識の変化を考察するきっかけとしての史料の提示など大変興味深い。第5問のように、資料を複数組み合わせ、解答を導き出す出題などは、総合的な思考・判断を問うもので、高校の現場担当者として大変参考になるものであった。

現在、高等学校の現場では、限られた時間の中で、従来の知識に重心を置いた学習・指導から、様々なメディアを活用し、史資料から読み取った情報を知識と関連付けて論理的に活用する等、思考力・判断力・表現力等を育成する指導への転換が、指導と評価の一体化とともに図られている。今回の共通テストは、昨年度以上にそのような資質・能力と、大学入試で問われる資質・能力の方向性がよりメッセージとしても示されるものであったと考える。授業者も様々な史資料を有効に活用し、授業に変化と多様性を持たせていく必要があると思料する。日々の学習における視点を考える上でも大変示唆的であった。

最後に、共通テスト問題作成に関係した方々の多大なご尽力に、心から敬意を表します。

日 本 史 B

1 前 文

4年目の共通テストとなる。全科目共通の問題作成方針に加えて、日本史の問題作成方針には、「事象に関する深い理解に基づいて、例えば、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題、仮説を立て、資料に基づいて根拠を示したり、検証したりする問題や、歴史の展開を考察したり、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する」と示されている。

なお、評価に当たっては、報告書（本試験）14ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内 容・範 囲

第1問 祭礼と行事をテーマに高校生が行った日本史の課題研究を基に、原始・古代～近代に至る諸分野について幅広く出題された。図や史資料からの読み取りが多くあった。

問1 大衆の娯楽に関する会話文を読み、空欄に適する説明文や語句の組合せを選択する問題。

近代の大衆文化におけるマス＝メディアの発達や、近世からつづく民衆の娯楽に関する基本的な知識が問われた。

問2 大正末期から昭和初期の三つの史料を、古いものから年代順に配列する問題。史料の読み取りから歴史的事象を判断する技能と、その事象の年代に関する正確な知識が求められた。

問3 江戸時代の民衆の行事を描いた図と、それに関連する二つの史料から読み取れる内容について、その正誤を判断する問題。図中の人々の様子からの読み取りや史料の比較によって、祭礼・行事に対する幕藩領主の政策の特色を読み取る技能が求められた。

問4 中世の風流踊りや踊念仏に関する二つの図と史料を読み取り、二つの正文の組合せを選択する問題。図中の人々の様子や史料から必要な情報を読み取る技能や、鎌倉新仏教に関する基本的な知識が求められた。

問5 原始・古代の人々の信仰や祭祀について述べた二文を読み、正誤の組合せを判断する問題。縄文時代と古墳時代の人々の生活と信仰に関する基本的な知識が求められた。

問6 祭礼と行事の歴史と流れについてまとめたメモを見て、本文に関連する内容として正しい文章をそれぞれ選び、その正文の組合せを選択する問題。仏教信仰と結びついた祭礼、中世の祇園祭の中断理由、廃仏毀釈などについての知識と理解が求められた。

第2問 原始・古代の墓制と葬儀をテーマに高校生が行った調べ学習のレポートを基に、原始・古代の政治・社会、文化について出題された。

問1 6世紀の古墳の変化について述べた四文を読み、二つの正文の組合せを選択する問題。弥生時代から古墳時代にかけての墓制の特徴の変化に関する基本的な知識が求められた。

問2 6～7世紀の統一国家の形成に関する三文を読み、古いものから年代順に配列する問題。文章から歴史的事象を判断する技能と、その事象の年代に関する知識が求められた。

問3 墓制に関する令の規定（史料群1・2）から読み取った三文を読み、それぞれの正誤を判断し、その正誤の組合せを選択する問題。注釈を活用して史料から必要な内容を読み取る技能と、日本の律令国家が唐を模範としていたことへの基本的な理解が求められた。

問4 藤原道長に関連する史料について述べた二文を読み、正誤の組合せを判断する問題。受領の成功について史料から読み取る技能と、摂関政治と太政官制の関わりについての正しい

理解が求められた。

問 5 古代の墓と葬儀の歴史に関して述べた四文の中から、一つの正文を判断する問題。二つのレポートから読み取れる年代情報や墓制のあり方に関する内容を活用して解く問題だった。古代の政治・外交・文化の様々な分野にわたる総合的な知識が求められた。

第 3 問 中世の日本列島の様子について調べた高校生の班活動の内容を基に、中世の政治・社会、外交について出題された。文化に関する問題はなかった。

問 1 鎌倉幕府の成立過程に関する三つの史料を、古いものから年代順に配列する問題。史料の読み取りから歴史的事象を判断する技能と、その事象の年代に関する正確な知識が求められた。

問 2 鎌倉時代から室町時代にかけての幕府の地方支配の拡大について述べた四文の中から、一つの正文を選択する問題。鎌倉幕府、建武の新政、室町幕府、それぞれの地方支配のあり方についての知識が求められた。

問 3 室町時代の国人一揆の契約状に関して述べた四文を読み、二つの正文の組合せを選択する問題。境目に関する取り決めや逃散した百姓の扱い、争いの裁定方法など、中世の一揆の慣習に関する理解と、史料から読み取ることができる内容を関連付けて考察する思考力・判断力・表現力等が求められる良問であった。

問 4 室町時代の蝦夷島との交易に関して述べた二文を読み、それに対応する適当地名や人名を選択する問題。中世のアイヌとの交易について基本的な知識が求められた。なお、二文は読み取りしやすく原史料を大意訳する配慮がなされていた。

問 5 琉球の中継貿易に関する史料と表について述べた二文を読み、正誤の組合せを判断する問題。史料と表から必要な情報を読み取る技能と、中継貿易の知識を前提に、読み取った情報を関連付けて考察する思考力・判断力・表現力等が求められた。

第 4 問 江戸時代の自然と人との関係について述べた文章を基に、近世の政治、社会・経済、文化について幅広く出題された。

問 1 江戸時代の開発について述べた四文の中から、一つの正文を選択する問題。江戸時代の土地や鉱山の開発についての知識が求められた。

問 2 江戸時代における産物の調査や利用に関して述べた二文を読み、その文に対応する適当な人名を選択する問題。本草学や経世論など、江戸時代中期以降の諸学問の発達に関する基本的な知識が求められた。

問 3 18 世紀初めに描かれた農書の図の説明文を読み、空欄に適する文章や語句を補充する問題。図から必要な情報を読み取る技能と、入会地についての基本的な知識が求められた。

問 4 江戸中期、治水工事への対応のために幕府が出した法令について述べた二文を読み、正誤の組合せを判断する問題。史料から読み取れる内容を関連付けて考察する思考力・判断力・表現力等が求められた。藩と国の区別を前提に、国役の仕組みや、国役の負担が百姓に求められた社会背景などへの理解が深まる良問であった。

問 5 秋田藩が森林管理の実務役人に出した指示に関する史料について述べた四文を読み、二つの正文の組合せを選択する問題。山林の過剰な開発が与える影響や、藩の山林の保護政策などについて、史料から必要な内容を読み取る技能が求められた。

第 5 問 時代による東京の変化についての高校生の会話を基に、江戸時代後期から明治時代までの政治・社会経済・文化・外交などの諸分野から幅広く出題された。

問 1 ペリー来航後の出来事について述べた三文を読み、古いものから年代順に配列する問題。幕末の政治・社会状況についての知識と年代感覚が求められた。

問2 大政奉還に関する史料と、それに関連する政治の動きについて述べた二文を読み、正誤の組合せを判断する問題。史料から必要な内容を読み取る技能と、戊辰戦争が勃発するまでの流れについて理解が求められた。

問3 明治時代の外交に関する二文を読み、その文に対応する適当な人物や条約の組合せを選択する問題。条約改正交渉を含む明治の外交について基本的な知識が求められた。

問4 天皇の東京行幸についての史料と図に関する四文を読み、二つの正文の組合せを選択する問題。史料や図中の人々の様子から必要な情報を読み取る技能と、錦絵の登場時期や史資料としての性格についての理解が求められた。

第6問 銅像の歴史について調べている高校生の会話を基に、幕末から1970年代までの政治・社会、外交、経済、文化などの諸分野について幅広く出題された。

問1 会話を読み、空欄に適する説明文や人名の組合せを選択する問題。大日本帝国憲法と明治の彫刻家に関する基本的な知識が求められた。[ア]は、年代の情報のみで正解を判断する問題だった。

問2 明治・大正期の出来事についての新聞記事を三つ読み、古いものから年代順に配列する問題。新聞記事から出来事や年代を読み取る技能と、明治・大正期の政治の動きについての正確な知識が求められた。それぞれの新聞記事は短文だが、人名や歴史用語のみで年代を判断するのではなく、複数の読み取った内容を組み合わせて年代が判断できる良問であった。

問3 井伊直弼の銅像建設の沿革に関する史料について述べた四文を読み、二つの正文の組合せを選択する問題。幕末の政治状況に関する知識が求められた。人物の評価が時代や土地柄によって変わることを示す事例として興味深い史料であった。

問4 板垣退助が明治天皇の銅像建設に対して述べた意見を読み、その史料の内容とこの時期の板垣退助について述べた四文の中から、二つの正文の組合せを選択する問題。史料から必要な内容を読み取る技能と、明治末年の政党に関する基本的な知識が求められた。

問5 日中戦争の勃発から敗戦までの政治・社会について述べた四文の中から、一つの正文を判断する問題。戦時期の政治・外交政策や経済統制の影響などに関する知識が求められた。

問6 戦後の裸婦像の設置に関する新聞記事について述べた二文を読み、正誤の組合せを判断する問題。寺内正毅内閣の外交政策に関する基本的な知識と、史料から必要な内容を読み取る技能が求められた。

問7 敗戦から1970年代までの科学技術について述べた四文の中から、一つの正文を判断する問題。高度経済成長期の社会の変化に関する基本的な知識が求められた。

3 分量・程度

(1) 分量

昨年と同様、問題数は大問6題、小問32題であった。そのなかで政治史、社会・経済史、文化史、外交史といった諸分野が横断的かつバランスよく出題されていた。昨年と比べると、絵図や図表・グラフ、現物資料などの史資料は減少したが、初見の文字史料や絵図が多く用いられており、知識だけでなく史資料からの読み取りを必要とする設問が多かった。ただし、文字史料の分量が例年より少なく、第3問では史資料の多さに応じてリード文を簡潔にするなどの工夫がなされていたため、試験時間(60分)と問題数に鑑みればおおむね適切な分量と評価できる。

(2) 程度

問題の程度については、学習指導要領が求める資質・能力におおむね適しており、歴史的な背景や意義などの体系的な内容の理解を求める問題や、史資料から必要な内容を読み取る技能を測

る問題がバランスよく配置され、おおむね適正であったといえる。本文や会話文には、共通テストで問うには細かな知識などが書かれており、全文を読んで活用すれば解答の手助けとなった。また年代整序問題では、因果関係に留意して歴史の流れを理解していれば、単純な年号の知識だけで解答する必要はなかった。ただし、知識と史資料から読み取った内容を関連付け、思考力・判断力・表現力等を発揮して解答する問題はやや少なかった。

4 表 現・形 式

(1) 表現

全体を通じて特に難解な表現はみられなかった。選択肢の文章が簡潔に述べられており、解答する上で判断に迷うような表現はなかった。今回の試験で多く出題された史料からの読み取り問題では、注釈を付すだけでなく、現代語訳に置き換えて読み取りをしやすくする配慮がみられた。設問の文章では具体的な人名や歴史用語を極力使用せずに、言葉の定義や事象の内容を考えさせることで、学習内容の確かな理解を測る工夫が多くみられた。

(2) 形式

昨年度同様、調べ学習や成果発表など学習の具体的な場面を想定した形式の出題がみられた。選択肢については、単純な語句の補充問題が少なく、説明文の補充問題、組合せの形式、年代整序、正誤判断など様々な形式の問題がバランスよく用いられていた。昨年度と比較すると、年代整序の問題がやや減少し、正文の組合せを問う問題がやや増加した。地理認識を背景とした問題はあったが、地図は出されなかった。図表・グラフなどの統計資料や、文化財の図版資料を用いた問題が少なく、文字史料の問題が多かった。

5 ま と め（総括的な評価）

今年度の共通テストは、各大問のテーマが身近な歴史と結びつくものが多かった。第1問は「祭り」、第4問は「自然の開発」、第6問は「銅像」であり、身近な歴史素材を想起させるものであった。問題作成方針には、「授業において生徒が学習する場面や、社会生活や日常生活の中から課題を発見し解決方法を構想する場面・・・学習の過程を意識した問題の場面設定を重視する」とある。歴史で身に付けた知識を、地域の歴史素材を探究していく学習の中で生きて働かせることは、実際の授業に取り入れられる視点であり、主体的で対話的な学習場面の設定であったと評価できる。また、文字史料の分量や扱いが配慮されており、解答の判断がしやすくなる工夫がなされていた。特に古代や中世の史料では主語・目的語の省略や独特な表現が多く、多くの注釈を付しても読解が難しくなる場合がある。今回の問題では、思考力・判断力・表現力等を主に測る問題では史料を現代語訳に変換してあり、読み取った内容を組み合わせて考察することに注力できた。今後も史料の性格や分量、問題で測りたい力に応じて史料の扱い方を変えることが重要だと気付かされた。一方、今後の課題としては、第5・6問では、幕末から明治初期の内容に偏っており、戦後史の出題が少なかった。第1問の通史問題等も踏まえて、問題全体で時代の偏りを小さくする努力を期待したい。また、全般的に基本的な知識や史資料から読み取る技能を求める問題が多かった。難易度や時間配分への配慮など作問の難しさは重々承知であるが、学習指導要領で重視されている観点を踏まえて、複数の史資料を組み合わせて総合的に考察する問題を増やすようにあわせてお願いしたい。